

# うたた寝



イラスト・平野 恵理子

マルバマンサク、マンサク科の落葉小高木。主に日本海側の山地に生え、早春に黄色の花を開く。

学時代も、フォークソング部に属した女子高時代も、マザー・テレサへの思いは変わらなかった。

「修学旅行で会った客室乗務員に憧れ『私なるうー!』と決めました」。短大で英語を猛勉強し、航空会社に合格。国際線でフライトを続けるうちに、ふと「心にしまっていた歌の道が出てきた」という。休日は歌謡学校に通い、仕事の合間に曲をつくる日々が続いた。

2000年に初のアルバムを出し、06年に退社する。心掛けるのは、マザー・テレサに触発された優しさと強さを音楽で表現し、心を癒やす「治音」の創造。応援者が「マザー・テレサを歌えばいい」と背中を押してくれ、聖女の言葉に曲を付けた「運命の詩」を08年に発表した。

先月のカフェ歌では「学生時代」「ペチカ」などを中高年客と歌い、感動を共にした。底流には「運命の詩」の冒頭曲「そこにいてください」というマザー・テレサの精神がある。

「近所の人たちに喜んでもらいたくて……」。歌手・アーティストのUこと金井優佳さん(44)が、東急多摩川線・鶴の木駅(東京・大田)近くで月1回の「カフェ歌」を始めて、半年になる。友人の「カフェ・ランスアン」オーナー、小口恭子さん(45)と組み、一昨年7月から毎月、昼・夕食のBGMとして歌ってきたが、「みんなで歌いたい」という常連客の要望に応えて始めた。

「もしあなたの家に／病気の人 さびしがっている人がいるなら／そこにいてください」……。近くの人たちを幸せに、は「子供の頃から憧れていたマザー・テレサの教え」でもある。ピアノレッスンがきっかけだった小学生時代も、アイドルの歌を踊り付きで歌った中

## 聖女の魂 分かち合う

(編集委員 嶋沢裕志)